

報恩謝徳

部長会報⑩



次回の部長会は1月21日(月)

★もし自分が選手を決める立場だったら…★

年明け前に、広島観音高校のビデオを見ました。部活動を自分たちで運営していくということをテーマに、「全員リーダー性」や「一日のコーディネート」といった話がありましたね。

その中でも、「部員で選手を決める」という話がありました。映像の中では、部長、副部長が中心となって長時間かけて選手を決めている様子。選手発表する際には発表する側、発表される側の何とも言えない緊張感と、悔しさを隠し切れず泣いてしまう部員が映っていました。

Q. もし自分が選手を決める立場だった場合、誰とどのような話をして、どのように伝えますか？

もし一年生ですごくうまい子が入ってきたら・・・、タイムや記録がまったく同じ子がいたら・・・、仲が良く、これまですごく頑張ってきた子が選手に入れなさそうだったら・・・、記録などはすごくいいのだけれど、やる気がない子がいたら・・・等

ビデオを見た後に少し考えてもらいました。それぞれの部活動の特徴もありますが、みんなが色々な立場になって考えていたことはとてもすごいことだと思います。

「決断(決める)」ってすごく大変ですね。部長として、選手として、部員としてそんな瞬間があるかもしれません。

★ファシリテーター役をチームに置く…★

「チームスポーツに学ぶボトムアップ理論」畑喜美夫さんの著書からの紹介です。安芸南高校では、あらゆるタイミングで選手たちのミーティングが行われています。その中で重要視しているのが「ファシリテーター」の存在です。ファシリテーターとは、中立的な立場で、意見や対話が活性化するように整理して、学習などの知的創造活動を促す黒子的な役割です。リーダー(部長)以外でも構いません。ポイントは、司会者ではなく、大切なのはミーティングの質を高めるために、自分の言動を慎んで参加者の意見を引き出すことです。

例えば「～どう思う？」や「～のためにどうすればいい？」など

「なるほど。そう考えているんだ。」

「だったら、こんなふうにやってみよう。どうかな？」

「今の良かったね！じゃあ、もう一つステップアップするためにはどうすればいい？」

「どうして、そうなったの？」「そうしたら、どうすればいい？」

問題を感じさせること

改善策を発想させること

OR

選手は、自分で考え出した答えを否定することはありません。認め、肯定してあげることでチームとして伸びるそうです。

安芸南高校の強みは、2・3年生がファシリテーター役を全員ができることだそうです。

